

れている子供さんがおられる学校においては、実際に受講していただいて、エピペンの使用などについてもこのような資料を渡しながら校内研修会を開いていただいて、どこに置いてあるか、どういう状況で、どういうふう処方するかということまで具体的な講習をしていただいています。これについては、そういう該当の子供さんがいるからということだけじゃなくて、今後、大事な項目として全ての学校で知識を共有するということが大事かなというふうに考えております。

○小関勝助議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ありがとうございます。子供の命を守るというのは、本当に私たち大人の責任でありますので、今後とも学校教育について、ぜひしっかりと安心・安全な学校教育をしていただきたいと思います。

そしてまた、市長におかれましても、先ほど遊具の件について、ぜひ早急にと言っても時間があるわけなんですけども、できるだけ早く遊具をつくっていただければなというふうをお願いしまして、私の質問を終わりたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

我妻 昇議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位9番、議席番号7番、我妻 昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 本日最後の一般質問となります。よろしくお願いいたします。

2013年も早いもので師走を迎えました。実は、昨年も同じように感じたのでありますが、なぜか1年がとても短く感じられてしまいます。なぜ短く感じるのかなと。それは、諸説あるよう

であります。簡単に言うと、年とったからだそうです。皆さんはいかがでしょうか。年をとるといろんなことになってしまって、新鮮な感覚がなく、毎日が予想の範疇を越えないため、時間が早く過ぎてしまうということだそうです。何だか寂しくなってしまいます。

しかし、もう一つ理由があるそうです。仕事や趣味など充実した生活を送っている人は、ふと気がつくとき驚くほど時間がたっているということだそうです。私は、どちらの理由で時間が短く感じるのか、よくわかっておりません。充実した日々を送っているからでしょうか、あるいは平々凡々な生活を送っているからでしょうか。しかし、どちらにせよ時は早く過ぎてしまう。考えれば考えるほどややこしくて、よくわかりません。こんなことを考えているから、時間があつという間に過ぎてしまうのかもしれない。あすのことや来年のことを全く考える必要がない、今、目の前のことだけを精いっぱい生きている子供たち、親に守られているそんな純粋な子供たちのような感覚になることができれば、あるいは時間は長く感じるのかもしれない。

それでは、一般質問に当たり、来年のことを考えてみたいと思います。

市制60周年の取り組みについてであります。

これは、全く私の抱いているイメージにすぎませんが、来年の市制施行60周年の関連事業は、10年前の50周年の事業より盛大になるんだろうなと思っております。振り返ってみると、10年前はどうしても財政面で地味な取り組みにならざるを得なかったのではないかと感じております。本来なら50年とか100年とかといった区切りのよい周年事業に力を入れるべきでありましたが、来年はさまざまな事業が重なる年でもありますし、活性化の起爆剤になってもらいたいとの思いから60周年を盛大にお祝いすべきだと私なりに考えております。

そこで、市長にお聞きいたしますが、来年の60周年の方針や目玉事業はどのように考えておられるでしょうか。国全体では景気が回復基調で、税収も伸びるといふことでもあります。しかし、我々にはいまだその波は来ておりません。景気の「気」は気分、気持ちであります。記念すべき60年の年にできる限り市民の気持ちが高まるような事業をしてはどうかと思っておりますが、市長のお考えをお聞きいたします。

来年はさまざまな事業が重なると述べました。具体的には、体育協会60周年、長井線100周年、大相撲長井場所、馬頭観音ご開帳、山形ディステーションキャンペーンなど例年にはない大事業がたくさんあります。それに加えて、もちろん例年どおりの観光イベントや各種お祭り、各種団体事業などがめじろ押しであります。これらの行事やイベントには大勢の市民の皆さんがかかわっていらっしゃるし、大きなお金が動くことでしょう。したがって、よりスムーズに事業が進むよう、60周年事業など市が関連するイベント等の開催日など、方針を早目に示したほうがよいのではないのでしょうか。

12月から4月ぐらいには各地で総会が相次いで開催されると思います。各団体の次年度事業の方針が検討、決定される時期であります。60周年にあわせて何かしようかと、長井線に協力しようなどと話し合いがなされるのかもしれませんが、もし市の方針が遅くなってしまうと、後で混乱を招く可能性があるとは私は心配しております。特別な年を迎えるからこそ、早目、早目の情報提供をお願いしたいと存じますが、いかがでありませうか。総務課長、観光振興課長それぞれにお聞きするものであります。

また、市民を大いに巻き込んで、市民と一緒に盛り上がる取り組みをしていただきたいと思っております。さきに述べました大きなイベントは市民との協力体制が不可欠な事業でありますので、既に協議を進めているところもあるで

しょう。盛大かつ成功裏に終わるよう期待をしておりますが、そのほかの一般的な事業やイベントにも目を向けてはいかがでしょうか。各地区や各団体が計画している事業を把握し、協力できる場所を探す努力をしていただきたいのであります。学校の学年行事や子供会、スポーツや文化芸術団体、福祉ボランティア団体などの事業と市の60周年事業と一緒に盛り上がるよう取り組んでほしいと思っておりますが、いかがでありませうか。これも総務課長、観光振興課長にそれぞれ伺うものであります。

次に、市報を改革してはどうかという提案であります。

新聞や市報を読まない方、行政情報に興味がない方にも行政は可能な限り情報を伝えなくてはなりませんし、いつも読んでいただいている方々のためにも、さらに読みやすい紙面づくりを目指すべきであると思っております。そこで、60周年を契機に市報の改革をしてみてもどうでしょうか。時代に合った見せ方があると思いません。若い世代でも、つい手にしたくなるような表紙やイメージがあると思いません。しかし、自分たちだけで一生懸命頑張ったところで、なかなか思うようにいかないのではないのでしょうか。そこで、例えば大手の広告代理店などの知恵をおかりするというのはいかがでしょうか。誰に何を伝えるのか、読む人の立場に立って考え、まさに伝えるコツを提案してもらおうのです。

市報のほかに、「あやめR e p o」やホームページ、フェイスブック等で情報発信しているのは高く評価いたしますが、市報そのものの見直しも必要だと思いません。市報とそれらを上手に連携させることも必要だと思いません。以前、市報と議会だよりをタブロイド版と一緒にしてはどうかと提案いたしました。再度検討することもあわせて総務課長に伺うものであります。

次に、土日開庁を検討してはどうかという質問であります。

毎週月曜日、夕方6時までの窓口延長は、市民にとってありがたい市民サービスだと思います。しかし、なかなか浸透していないのではないかという思いがあります。もっと効果的な方法で窓口を延長してはどうでしょうか。平成23年の3月定例会で同じ質問をした際に市長は、月に1回か2回、土曜か日曜の半日でも窓口を開く、あるいは月曜の延長を7時までにするなど、検討していますと答弁していらっしゃいます。ぜひ行っていただきたい市民サービスです。市民や地区長からの要望は特にないようございますが、半ば諦めているのではないかと思いますし、潜在的な要望はあるのだと感じております。この際、60周年を節目に土曜や日曜の窓口開庁を検討していただくよう希望いたします。総務課長にご答弁をお願いいたします。

最後に、公共施設白書づくりについてであります。

公共施設の老朽化対策、施設の統廃合、道路や上下水道のインフラ整備などは、将来にわたり半永久的に続いていく課題であり、避けては通れない道です。しかし、何をどの程度、いつまで維持管理していくのか、どの程度の規模で建てかえられるのか、費用は幾らか、将来どの程度の利用が見込めるのかなどを考えるのは大変難しいことだと認識しております。それらを検討する際の基礎となるのが公共施設白書であると考えております。市役所をどうするか、野球場は、図書館は、あそこの道路はなどと、それぞれ個別に計画を立ててしまっただけでは次世代に無責任であると言えます。特別な力で優先順位が決まってしまっただけでは、これからの市民は納得しません。共通認識の上で方針や優先度を示し、総合的、客観的、効率的に進められるよう、60周年を契機に公共施設白書づくりに着手してはいかがでしょうか。財政課長にご答弁をお願いし、壇上からの質問といたします。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員からは、市制60周年の取り組みについてということで、ご質問いただきました。私からは、市制60周年の取り組み全体についてご答弁させていただき、総務課長、財政課長、観光振興課長からは詳細について後ほど答弁いたさせます。

まず、現在考えております市制60周年の事業につきまして、総合的な考え方を述べさせていただきます。

我妻議員からご指摘がありましたように、今から9年前の市制50周年事業は、財政再建中でありまして、十分な記念事業はできなかったと、ならなかったというふうなことで私もいるところです。60周年は、周年事業の中で50年、100年と考えた場合には大きな区切りの年ではないという見方もありますが、私といたしましては、60周年は還暦という考え方、日本古来からそういった考え方もありますので、50周年で大きくできなかったこともあることから、大きな区切りの年であるというふうなことで考えております。特に120年が大きく取り上げられることはないというふうな考えますと、60周年は特別な区切りとして盛大に記念式典を行うにふさわしい年であると思っておりますし、これまでの長い財政再建の期間を乗り越え、財政状況も他の市並みになった時期でもありますので、あわせて市民の皆様と一緒に祝いしたいと考えております。特に来年度は、JR6社のディスティネーションキャンペーンも行われますので、観光客誘致にも効果のある記念事業を計画したいと考えております。具体的な事業につきましては、まだ予算編成前ですので、予定事業としてご理解をいただきたいと思っております。

大きな事業といたしましては、我妻議員からありましたように、大相撲の巡業が長井黒獅子場所として8月10日に開催される見通しですので、市としても共催というような形で支援したいと考えております。また、大相撲の日程に

あわせ水まつりを1週間ずらしまして、さらに、市民や各学校、保育所の児童生徒によるパレードなど、例えばの話ですけれども、あるいは市民の皆様のちょうちん行列みたいなものをまちなかでできないかと。多くの市民が集まり、お祝いのできる事業にしたいなというふうに考えております。さらに、行く行くは水まつりを中心に3日間ぐらいの連続のお祭りに拡大し、長井市の新しいイベントとして市内外から人の呼ぶことのできる祭りに育てていきたいと考えております。市制10周年のときはパレードをしたと。小学生、中学生の吹奏楽と鼓笛隊のパレードをしたというようなこともあったようですので、そういったこととか、なかなか夏ですので、子供たちが難しいとしたら、夕方あたりちょうちん行列とか、そういう今までやったことないものなどを検討するのもおもしろいんじゃないかと、これ1つの例であります。

そのほかの主な事業といたしましては、長野県の飯山市在住の高橋まゆみさんの人形展を何とか長井市でできないかということで、依頼、計画しております。高橋さんは、平成15年から22年までの間に全国95カ所で人形展を行い、延べ180万人の観客を動員し、巡回展後は飯山市に高橋まゆみ人形館を開設され、3年間で50万人を超える入館者がある人気の人形作家です。飯山市とは、フットパスや観光プラットホームづくりのかかわりで互いに交流をさせていただいておりますし、災害の防災協定なども結んでおります。飯山市に協力をお願いし、人形展を開催したいと考えております。

また、長井芸術祭もこれまで以上に幅の広い分野での事業開催ができないかと考えております。具体的には、長井出身者で長井に在住あるいは首都圏等々に在住している方でも、音楽活動や演劇活動をされている方を中心にした発表の場を新たに設けるイベントも芸術祭の一環としてお願いできないものかと検討しているところ

でございます。さらに、黒獅子まつりも、これまでの1日だけの開催から2日間の開催を50周年のときはしていただいたというふうに思っておりますが、そういったことを検討、協議していただいておりますが、これまで以上に活気のある祭りにしたいと考えておりますし、場合によっては8月の時期にそういった、これは黒獅子まつりの実行委員会の意向もありますが、3日間のパレードの中で、やっぱり夜そんなに多くの神社のご協力は得られないかとは思いますが、できないかなども検討していただいているところです。

ほかには、長い間、市勢要覧が作成されておりましたので、60周年事業として作成を予定しております。さらには、長井市が誇ります人間国宝の宇治紫文さんのご講演と、長井市とゆかりの深い角野栄子さんにちなんだ事業を角野先生とも相談しながら検討したいというふうに考えております。このほか、我妻議員からありましたように、馬頭観音のご開帳の年でもありますし、長井駅誕生100周年にも当たります。山形鉄道では、山形鉄道のディステーションキャンペーンも長井市をこっちはメイン会場にしたいというふうなことも言っておりますし、来年はうま年ということもありますので、馬頭観音のご開帳についてもいろいろ相談してまいりたいと思っております。こうした事業と連携して60周年事業を進めたいと考えております。

ほかに、今まで各種スポーツ大会につきましても、冠をつけさせてもらって60周年事業としての位置づけを行い、元気な市民が集まる場づくりを進めながら、市民とともにお祝いできる体制をできるだけ早く進めてまいりたいと考えているところでございます。私のほうからは以上です。

○小関勝助議長 中井 晃総務課長。

○中井 晃総務課長 それでは、私から我妻議員

の質問にお答えいたしまして、市制60周年事業の市の方針を早く出すべきではないかというのと、市民と一緒に盛り上がる取り組みを、並びに市報の改革並びに土曜開庁につきましてお答えをさせていただきます。

初めに、60周年記念の事業についてでございますが、できるだけ早く示すべきという提案、大変ありがとうございました。長井市内の各団体の26年度の予算編成ですとか、事業予定を組むに当たりまして、60周年事業の方針を早く示す必要があるということは議員と同様に感じておりましたけれども、予算編成の最中でありまして、まだ議会へも提案されていない状態で、どのような形で方針を示すべきかというののタイミングを検討しているところでございました。議員からのご提言もいただきましたので、今後、市長の方針を受けまして、財政の予算編成状況を見ながら、できるだけ早いうちに来年度の市制60周年事業につきまして、方針ですとか事業の骨子を示していきたいというふうに考えております。

また、市民と一緒に盛り上がる取り組みをということですが、やはり来年度、体協等の60周年事業もありますし、いろんな団体で節目の年というところがございますので、こうした団体と事業につきまして、できるだけ早目に調整し、一緒に事業できるように早目の働きかけを行いながら取り組ませていただきたいと思いますというふうに考えております。

次に、市報も60周年事業にあわせて改革してはどうかということでございますが、市の情報提供につきましては、このたびフェイスブックをスタートさせていただきましたので、このフェイスブックの反応を見まして、市報についても、より多くの市民の皆さんに見ていただけるよう紙面構成等の検討もさせていただきたいというふうに考えております。また、広報担当者を毎年、広報編集の研修会に参加させておりま

す。また、賞をとったほかの市の市報を取り寄せまして、紙面の状況を検証いたしまして、長井市もどのような形で紙面をレベルアップすべきかというのを職員でも自主的に検討、検証しているところでございます。

また、ことしの「あやめR e p o」につきましては、1月発行の第6号につきましては東北芸術工科大学の学生に編集をお願いいたしまして若い感覚でつくっていただきますので、こうした紙面も参考に市報へ反映をさせていただきたいというふうに考えております。これからも魅力のある紙面づくりのために、職員のレベルアップにつきましては、研修会への参加並びにいろんな参考となりますような手法を勉強させていただきながら、レベルアップにつきましては引き続き努力をさせていただきたいというふうに考えております。

また、議会だよりと市報を一緒にタブロイド版にできないかという件でございますが、行政と議会の役割、立場がそれぞれ違いますので、これを同じ市報に入れてしまうというのは市民の方に誤解を与えるという一面もありますので、もう少しこの辺は議会の皆さんとも十分に協議していただいて、今後の方針というのを打ち合わせする必要があるのではないかというふうに考えております。

次に、土日の開庁につきましてでございますが、今の電算システムでは、土日に開庁しましても基本的に新たな費用が発生しないシステムになりましたので、土曜開庁につきましてはシステム上の障害はなくなっております。ただ、現在、市民課の窓口で月曜日に窓口延長しておりますけれども、平成22年度から25年の11月までの利用状況を集計をしていただきました。それを見ますと、利用者は少しずつはふえるような傾向にはございますけれども、1回当たりの利用者は3人から5人といった状況でございます。また、延長の窓口利用者からは、市民課以

外のほかの窓口の開庁の要望は出ておりませんし、市政座談会等でも土日の開庁に対する要望は特に出されていないというのが、我妻議員の質問でもございましたが、現状でございます。

延長窓口の利用状況を見ますと、住民票と印鑑証明の発行が非常に多くなっております。こうした市民のニーズを踏まえまして、より便利なシステムを検討すべきではないかというふうを考えております。ほかの自治体では、住民票や印鑑証明といったものをコンビニでも交付できるような検討を始めておりますし、コンビニの業界でも、こうした証明発行に向けた受け入れ体制の整備も進められておりますので、市民のより望んでいるサービスをどうやって提供するかというところをこれから検討させていただきまして、ニーズに合わせたサービス提供を考えていきたいというふうに思っております。

○小関勝助議長 齋藤環樹財政課長。

○齋藤環樹財政課長 私のほうからは、(5) 公共施設白書づくりに着手してはどうかのところにつきまして答弁させていただきます。

第5次総合計画に係る公共施設等の整備について、分野別ではなく、総合的に検討する庁内組織として公共施設等整備庁内検討委員会がこの10月に設置され、10月16日に第1回委員会を開催しております。委員長である副市長以下、関係課長12名で構成し、総務課、財政課、企画調整課が事務局となっております。公共施設の整備検討手法として、公共施設マネジメントに代表される考え方が注目されており、いわゆる公共施設白書につきましては、一般的にその一環、前提作業として位置づけされていると理解しております。

このような公共施設マネジメントのような考え方は有益な手法ということですが、課題は、現状把握、いわゆる白書の作成を含めたさまざまな作業に時間とコストを要すると、なかなか具体的なマネジメントまで結びついている例が

少ないということがございます。そうはいいましても、公共施設の老朽化対策につきましては地方公共団体共通の大きな課題でございまして、総務省が地方公共団体負担軽減の観点から公共施設老朽化対策支援の一環といたしまして、施設水準、民活導入、地方財政措置、国の財政支援など、財源面のノウハウも含んだ対策のマニュアルのようなものを今年度中に作成する予定と聞いております。

今後、庁内検討委員会が整備方針等について協議する過程で、必ずしも白書という形式でなくとも、公共施設の現状把握とその取りまとめにつきましては必要と思われることから、先ほど申し上げました国の動向や考え方を踏まえ、既存の資料の活用も含め、事務負担が少なく、実効性のある手法も含め検討されていくものと考えております。私からは以上でございます。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 市政60周年の取り組みについて、観光関連のことについて私のほうから答弁させていただきます。

観光関連につきましても、いずれのイベントもパワーアップして臨むことが必要かなというふうに考えております。ただ、流動的な部分が非常に多いものですから、これからお話しすることは確定ということではなくて、予定ということで捉えていただきたいと思います。

まず、白つつじまつりですけれども、例年どおり5月10日から31日の線でやりたいと思っております。

続きまして、黒獅子まつりでございますが、5月23日、金曜日に前夜祭、翌日の24日、土曜日に本祭りというところを本線として考えております。ただ、10年前は2日間開催というふうなことをやっておりました。ですから10年前の2日間開催、あるいは一方で、2日開催がちょっと大変だと、警備の方の関係で非常に大変だという意見もございまして、だから2日目のも

う一つを別の日にできないかというご意見もございまして、調整中でございます。

あと、あやめまつりが6月14日、土曜日から7月6日、日曜日にかけてというふうなことを予定しております。山形ディスティネーションキャンペーンが6月14日土曜日から開始されますので、恐らくあやめまつりについては日程変更がないと思っております。

あと、水まつり、最上川花火大会でございますけれども、8月9日、土曜日、例年より1週間おくれというふうな線で話が進んでおります。例年より1週間遅れるのは、先ほど話があったように、大相撲長井場所が翌日の10日、日曜日に開催されるというふうなことで、それとの相乗効果を高めたいというふうなことで、変更を今のところ予定しております。このほかにもいろいろ話が出ておまして、決定次第、できるだけ速やかに市民の皆様にお知らせしたいというふうに考えております。

市民の皆さんと一緒に盛り上がるような取り組みをすべきだという議員のご指摘は、ごもっともかなと思っております。やっぱり市民のご協力がいただけないと観光のイベントは盛り上がりませんし、何ともうまくいかないことがあります。観光のほうではANO会議というのが設けられております。観光の関係団体が相互に情報交換をするようにというふうなことで設けられた会議でございます。これによって結構充実してきたのかなと考えております。

ANO会議というのは、アルファベットでA、N、Oと書いてるんですが、何かの頭文字をとったというわけじゃなくて、最初この会議ができたときにまだ名前がついていなくて、「あの会議よ」というふうに言ったことが、そのまま会議の名前になってしましまして、ANO会議ということで今も続いておりますが、それには各観光関係の実務担当者が皆さん集っていただいております、横の情報交換

をやっていただいております。我妻議員にもこれに参加していただいております、大変ありがたく思っております。こういった状況に満足することなく、ANO会議の支援をさらに受けながら横の連携を強めていって、うまくやっていきたいと思っております。以上でございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

最初に、予算編成前でタイミングをはかっていたという話なんですけど、しかも来年のような大きな事業を抱える予定を予算編成前だからといって控えるというようなことではなくて、やはりどんどんこういう考えはあるんだということも全然言って構わないと思うんですけど、もしも差し支えなければ、例えば60周年記念事業は何月何日にするんだというようなことも言っていただいたほうが、先ほど出したように、体育協会の60周年が11月に考えてるなんていう話を先日聞いたものですから、その辺どうなるんだろうなというふうに素朴に疑問に思ったりするわけです。

それが、もしも情報のやりとりで、先ほどの長井ダムの話じゃないですけども、知らなかったとか、そんなに人が来ると思わなかったなんていう情報のやりとり、意思の疎通がなっていないなんていうと大変なことになりますので、差し支えなければ構いませんが、もう一つ、式典、60周年の式典等、具体的に言えるようなところがあれば、私は言って全然差し支えないと思うんですけど、いかがか、市長に言ったほうがいいですか、総務課長のほうがいいですか。総務課長ですか、お願いします。

○小関勝助議長 中井 晃総務課長。

○中井 晃総務課長 それでは、お答えいたします。

通常の式典は、市民表彰等を11月3日に行っておりますけれども、そういった式典等は11月3日になるのではないかとこのように考えてお

ります。ただ、イベントとしては11月ではちょっと遅過ぎる嫌いがありますので、もっと早目の時期ということで現在検討しております。先ほど市長のほうからもお話がありました高橋まゆみさんの人形展につきましては、まだ実施時期が調整ついておりませんので、その実施時期にあわせてほかのイベントをどうするかといったことも出てくるのかなというふうに思っております。

また、観光振興課長からありましたように、黒獅子につきましては、5月に2日開催できない場合は8月あたりというふうになっておりますので、必ずしも同じような時期に全て合わせられるということではございませんけれども、できるだけある程度の時期に集中をしまして、60周年の記念のイベントであるということがわかるようにはしたいというふうに考えております。そうした時期を考えますと、9月は議会がございまして、10月あたりがメインの事業の時期になるのかなというふうに考えているところでございます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 式典は11月だが、ソフト事業ということでしょうか、メイン事業は10月あたりでというふうな方針があるということで理解しました。市民と一緒に盛り上がりとうこと的前提として、こう考えてるんだよということになるべく言って、皆さんからアイデアをもらうというのが大切な感じがいたします。

各団体も長井が60周年迎えるんだという話は、大分わかってらっしゃる、役員の方々などはわかってらっしゃる人が多いですし、何かしなくちゃなという、市民として、あるいは団体を任されている役員の方として、何かしなくちゃ、協力しなくちゃと思ってる方が多数いらっしゃると思いますので、ぜひそういった方を巻き込んで、市で全て抱えるのではなくて、市民参加型の60周年できたらすてきだなというふうに思

ってますんで、ぜひともそこら辺は柔軟な発想でというんでしょうか、予算が通ってないからとか、そういうことじゃなくて、なるべくその前でも巻き込んでいただきたいなというふうに思ったところです。

そのほかに、今いろいろやりとりした以外でも、例えば8月29日、馬肉の日ってここ2年間ほど盛り上がってるんですけども、それにあわせて商工会議所が産業フェアをその日にあわせてやりたいとか、そういったことも考えてらっしゃるようです。そういったものを出し合うというのが大切ではないかなと思っております。

また、私が実行委員してるんですが、置賜八食祭、3市5町の置賜広域行政事務組合の八食祭も長井に誘致したいというふうに今申し上げておりまして、企画調整課の職員の方と一緒に、高島町と米沢市と南陽市で開催されましたんで、次はぜひ西置賜でということで、長井に来年持ってきたいなと。かなり集客力のあるイベントですので、そういったことも考えますと、より具体的にもう今から来年の60周年の話をすべきだなというふうに思っております。

また、青年会議所が山形でアジアの大会、でっかい大会があるということで、その関連もあって青年会議所の山形県のブロック大会が長井であるとか、ここも多分数百人いらっしゃると思うんですけども、そういった細々とした情報も入れて、早い段階で、先ほどANO会議という話もありましたけども、ぜひ市民を巻き込んだ大きなイベントにしていきたいなというふうに、一年にしていきたいなというふうに思っております。市長、もう一度ご見解をお願いいたします。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻議員からただいまご提言いただいたように、これは市役所だけのお祭りではありませんので、市民をいかに巻き込んでいくかということで、できるだけ早いうちにも

う一回まずは庁内で調整会議を、プロジェクトチームまで持っていくかどうか、そこら辺の判断はもう少し情報を集めてというふうに思っていますが、我妻議員からもありましたように、八食祭をまた何か高島でやるというような話が出てまして、我妻議員が頑張っていたように、私のほうには声かからないんですが、とにかく今回は西置賜でしてほしいと。なぜ同じところで2回しなきゃいけないんだということで、来年は八食祭を長井でぜひしたいと思いますので、お力添えいただきたいと思ひますし、あと、市のほうでも、今年度から長井青年会議所の要請に応じて市の職員を3名研修という形で参加させています。

そちらのほうから報告をいただいておりますが、来年は山形県のアジアの大会でしたっけ、山形であるということですが、県の大会は長井で、つつじ公園を会場に外でやりたいという話なども聞いておりますし、そういった情報をやっばりできるだけ早目に一元化して、まずは庁内で連絡体制をきちっととりながら、いろんな団体全体での来年の取り組みをできるだけ早い時期にしていきたいと思ひますので、ぜひいろいろご提言とか、あるいは情報提供をお願いしたいというふうに思ひます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

スポーツ大会に冠大会をつけると、60周年の、とてもいいと思ひます。私、卓球協会で卓球大会やっていますけれども、あやめ杯・卓球大会という、賞品がもらえたりすると参加者がふえるんですね。単純なことなんですけれども、重要なことで、それを市のほうで予算をつけていただいて冠大会にするということでスポーツ振興に直結するんですね。各スポーツ協会の方々のやる気も違ってきますので、ぜひこのスポーツ冠大会は、なるべく豪華なというんでしょうか、派手な感じにさせていただけると、これ

は盛り上がるんじゃないかなと思ひます。

また、水まつり、花火大会は、8月9日に1週間ずらしてということで、そうすると、関連するのが各地区の子供会の行事です。大概8月の最初の第1土曜日ですので、何かキャンプとかいろんな子供会事業とかぶってしまって、子供たちが花火大会に行くべきか、キャンプに行くべきかで迷うなんていう話をよく聞くんで、なるべく早目に8月9日なら9日というふうにもう確定させてしてほしいというところですが、これはどうしたらいいんですかね、観光振興課長に聞いたほうがいいんでしょうか、市長ですかね。これは、でも観光協会に委託するわけですので、観光協会の意向もあるかと思ひますが、ここはなるべく早く確定させていただきたいと思ひんですが、観光振興課長ですか、よろしくお願ひします。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 観光協会に早目に要請して、早目に決断をいただきたいと思ひます。議会のほうも、ご支援のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 協賛金の話、蒲生光男議員からもありましたけども、協賛金たくさん集まるように私たちも手助けできる部分があればしたいというふうに思ひます。

ついでに言って済みません。観光パンフレットを、るるぶさんにでしょうか、最初の案では、ですが、昨日の話でしたっけ、昨日では、るるぶさんでなくて違うやり方をつくっていくという話でしたけれども、3月までにつくるわけですよ、年度の予算ですので。そうすると、まち歩きがどういうふうに表示するのか、いろんな観光のブックをつくると思うんですが、あれ多分皆さん知ってらっしゃるんですかね、こういう情報を載せてほしいとか、こういうこと、ここの情報を上げてほしい、そういうすごいパ

ンフレットをつくるんだったら、こういうことを載せてほしいと思ってらっしゃる方がいるんじゃないかなと思うんですけども、そういった方々に声をかけてつくってらっしゃるのでしょうか。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 山形ディステーションキャンペーンの旅行商品造成事業につきましては、現在進行中でございます。10月からスタートしたこともあって、ちょっと大変な状況になっておるんですけども、方針としましては、やっぱりまち歩きのことをやりたい、まち歩きそのものを旅行商品にしたいというご意見が多かったものですから、何とかそれをしてしたいと思います。

それまでですと、一応広域的な取り組みを中心として、隣境のやつということですから紹介する部分はほんのちょっとだったんですけども、まち歩きそのものを商品とした場合は、コース図、それは間違いなく必要ですし、コース沿いにあるいろんな見どころについての紹介も必要ですし、それからお店の紹介はもちろん必要だと。それから何よりも、いろんな商店のそういった顔、皆さんのもてなす人の顔、そういうものを出す必要もあるというようなことで、かなり欲張りなちょっと内容になってしまっていて、そうすると、ページ数もふやさざるを得ないというふうなことでやっております。これにつきましては、これから具体的に各商店さん、あるいは各名物の情報収集ということに入っていく、現在は、基本的にどういうふうな構成にするかというふうなことを組んでいる段階でして、もうちょっと時間がかかるかなと思っております。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 わかりました。大分日程的にきついんじゃないかなというふうに想像つくんですが、ぜひいいものにしていただきたいと思います。

市報についてですけども、フェイスブックを試験運行というんでしょうか、試験的に開設をして、それらを見てから市報のあり方なども検討していくというような答弁だったと思いますが、フェイスブック、私、実はヘビーユーザーで、かなり毎日フェイスブックでいろんなことをやってるんですけども、フェイスブックを見て、まずその利用状況を見てから市報のほうにも検討するというのであれば、ぜひフェイスブックを使ってる方々からも意見、私なども含めてですけども、意見聞いてほしいなというふうに思います。

「あやめR e p o」を学生さんに編集してもらおうというのは、とてもいいことではないかなというふうに思います。私、先ほどは広告代理店というような話をしましたけれども、何もそれが全ていいということじゃありませんので、学生さんの感覚というんでしょうか、センスを取り入れた編集をするというのは大変いいことだと思います。その市報の検討について、もう一步具体的に踏み込んでご答弁いただけませんか。

○小関勝助議長 中井 晃総務課長。

○中井 晃総務課長 フェイスブックにつきましては、利用者からの反応が見られますので、どういったフェイスブックの情報が反応が高いのかというところを見せていただきまして、市民が求めているニーズというのはどういうところにあるというのを判断させていただきまして、そういったニーズに合わせた紙面構成、どういったところに重点を置くかというところを参考にさせていただきたいというふうに考えております。

また、芸工大の生徒にも今回紙面作成をしていただきますけれども、先ほども言いましたように、職員も、研修等でどういった紙面構成が今後必要かというのは十分に承知をしております。

ただ、市報ですので、どうしても伝えなければならぬ内容がございまして、限られた紙面の中にそれを入れようとするすと、非常に余裕のない、スペース的にはかなり窮屈な形になってしまうというのは、それは職員も承知をしておりました。より見ていただくためには、文字数を減らしまして、画面で訴えるような紙面構成が必要だというのは職員も十分に承知はしておりますので、そういった、どのような形で改善していくかというのはある程度は理解をしております。問題は、それだけの情報量を、どうやって紙面の中に入れるかというレイアウトで大分苦労しているところがございますので、その辺、今後いろいろ調整をさせていただきたいと思っております。必ずしも紙面の中に無理やり押し込めるのがいいかということも含めまして、これから少し検討させていただきたいというふうに思っております。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

あと、議会だよりと一緒にというのは、なかなか難しいという見解ですので、わかりました。

次に、土日開庁ですけれども、システムのアウトソーシングが進んでシステムの費用はかからないが、なかなかすぐというわけにはいかないと。月曜日も1時間近くですか、45分間でしようか、延長してますけども、3人から5人程度であるということで、これについては要望もそんなに出てないということでしたけれども、県内でも土曜日あけていますよ、日曜日に半日あけてますよというのが数カ所あると思っております。済みません、私、調べてきませんでした、数カ所だったと思うんですが、あります。あるいは、何か自動販売機みたいな何かそんなの、ちょっと忘れちゃったけども、そういったことを取り入れて、夜でもできるなんていうところもあったりして、大変いろんな改革をしています。

長井市でも、納税はコンビニ収納を一部先行

して今年度中に、全てでしたっけ、全ての収納はコンビニ収納できますよね。あれは、市民から強烈なニーズで、してくれ、してくれというふうに頼まれてやったわけではなくて、より納税がしやすいように、より利便性が高まるようにということでやったかと思っております。窓口延長なんかも、ニーズがどうだとか、そういった要望が上がってこないからというのはちょっと違うのかなど。全国的にもやってらっしゃる自治体がありますので、ぜひ月に1回でもいいですから、市長も以前おっしゃっていたように、土曜日とか日曜日、半日でもいいと思っております、やってみるということはいかがでしょうか、市長。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員おっしゃるのはよくわかるんですが、いろいろ検討した際に、例えばシステムを動かして、それは窓口をちゃんと、印鑑証明とか住民票がメインだとしても、やっぱり四、五人は出勤しなきゃいけないだろうというふうなことを考えますと、かなり人的に負担をかけるのかなど。それでどのぐらいの効果といいますか、需要があるのかというふうに考えますと、もうちょっとのところではコンビニのほうで24時間、多分24時間でできると思うんですが、住民票とか、あるいは印鑑証明はとれるような体制ができますので、まだ現在、全国の1,700ぐらいの自治体の中で二、三十ぐらいしかしてないんですけども、そういった状況になれば、ある程度の市民の皆様の利便性が図れるだろうというふうに思っています。

やっぱり一番の課題は、例えば四、五人の人が土日出ますと、交代で出るとしても、何らかの形で窓口業務に非常に負担をかけるということもあります。ですから、まずは、確かに月曜日1日だけ1時間延長の6時まででいいかということもあるんですが、もう少し、6時まで月曜日やってますよというPRが足りないような

気もします。ですから市報のことも我妻議員がおっしゃるのはよくわかるんですが、市報は市報で非常に重要だと思いますし、休日の窓口についてどうするかということについても、再度現場の市民課はじめそちらのほうの体制も考えながら、なお再度検討してまいります。まず、2年から3年以内ぐらいにコンビニでそういう発券できるような体制を長井市でも取り入れていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。以上です。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 コンビニで住民票の手続きができるのは、見てきました。これ、さっき竹田議員がトイレの話で神奈川県秦野市の話をしましたけれども、役所の敷地内にコンビニがありまして、そこに年間1,200万円ぐらいで、駐車場等その全て土地と売り上げなども入れて上がるそうなんですけども、そこでは住民票の交付をコンビニでやってらっしゃいました。あと、観光物産館が隣あわせでありまして、日曜日だろうが何だろうが手に入るし、便利なんですね、とにかく便利で、人がいっぱい買い物してらっしゃいまして、市の刊行物、本とか冊子、いろんなものも置いてあったし、とても便利だなというふうに感じてきましたんで、もうコンビニでそういうことが可能ということであれば私も強く申しませんけれども、ぜひ努力されて、より利便性の高いものを目指していただきたいというふうに思いました。

最後に、白書ですけれども、公共施設白書というのは何がまず一番の肝かというふうに思いますと、情報の共有ではないかなというふうに思います。どういう施設が、どういう道路が市で管理して、橋があって、公共下水道があって、水道があって、建物があって、学校やいろんな福祉施設があってということで、それらが、もちろん当局も市民も議会もみんなで共有した状態で、何からやっていこうか、あるいは統廃合

すべきだ、今と同じ面積を、建物を、道路を全て維持管理していく、今後10年も30年も維持管理していくのは無理だよなと。じゃあ、何か考えていこうというような共通認識のために一番必要なのではないかなというふうに思いますので、先進事例のような行き届いた分厚い冊子にまとめるという作業は大変事務的な負担もかかると思われますので、先ほど言ったように、総務省のマニュアルが出るとすれば、事務負担を考えながら、そういうのをぜひつくっていただきたい。そして共通認識を持っていただきたいと思っておりますが、市長、いかがでしょうか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員おっしゃるように、まずは公共施設の実態とか課題、その部分をしっかりと分析したものを情報公開して市民の皆様にとしっかりと認識していただくというのが大切です。そういった意味では、現在そういう資料ある程度あるわけですね。ただ、それを白書という形でまとめてはいないんですが、考え方として、やっぱり白書みたいな形で市民にお知らせするというのも重要だと思います。その際に、そこからの次のステップが難しいんですね。

私もいろんな座談会をしまして、かなり厳しいお叱りを受けたのが何回もあります。どうするつもりなんだと、この施設をなくして、市長はなくすと言っていると、みんなで反対しようって、つるし上げに遭ったこともあります。女性の団体からですね、これはひどかったです。いや、それはなくすとは言っていないと、ただし、この10年間は整備できないと、今後どうするかについては、みんなで意見交換しましょうと。ただ、集中改革プランは、そこはなくすというふうに決めてるんですよ。ですからそこをどうするかというところ、実はその次のステップが難しい。ですから公共施設のマネジメントにいく際に、そこでもうなかなかストッ

プしてしまうんですね。ただし、議員おっしゃるように、白書というのは、しっかりと分析したものを市民の皆様にお知らせするべきだと思います。

○小関勝助議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 最後に、意見を述べさせていただきますが、やはり白書をつくって、市民からも考えてもらおうと。いや、これではまずいなと、いつまでもあれが欲しいこれが欲しいと言ってちゃだめだな、もしくはこれとこれは統合したほうが私たち使いやすいねということをも市民から考えていただく、何か離れてる施設を近くにあったら、もしかして便利なんじゃないか、使われてない部屋があるんだったら、こちらの機能と合わせたらいいんじゃないかという話を市民からしていただくようなことになれば、大変、おもしろいと言うとおかしいんですけども、市民参加型で公共施設のあり方を検討できるというような、いわば理想形のようなことができるんじゃないかなというふうに思っていますので、ぜひ白書づくりに着手していただきたいと思います。

これで終わります。ありがとうございました。

散 会

○小関勝助議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は、9日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後2時55分 散会